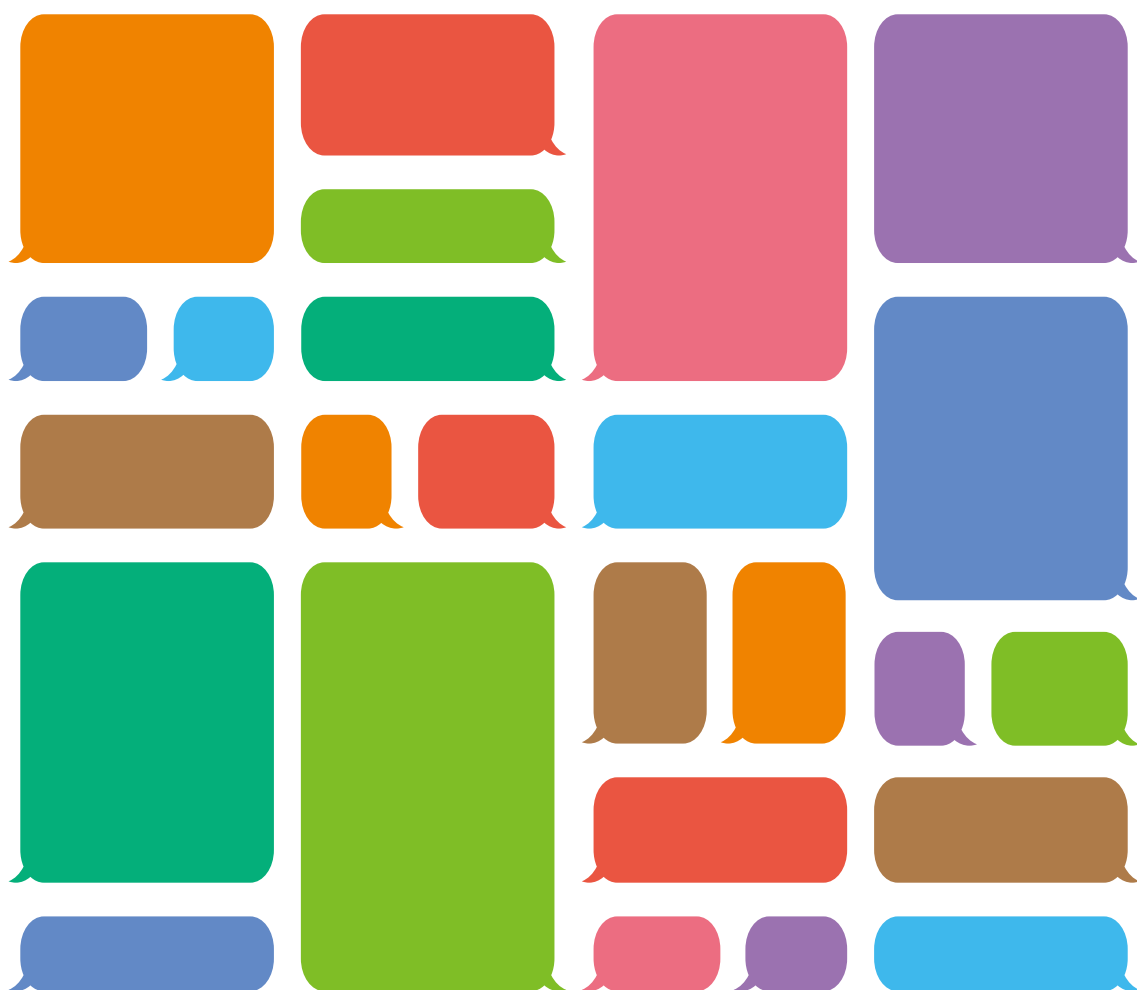


トークス
Talks

富里市区長会
区・自治会長インタビュー集



はじめに

「答えは富里の中にある」
記事を書き終え、そんなことを想いました。

令和3年。新型コロナウイルス感染症拡大により、区・自治会活動は大きな制約を受け、これまで以上に区・自治会活動を行うことが難しくなりました。

そのような中、富里市区長会では、市内の区・自治会活動の一助となる事業を模索していました。

「他の街の事例を紹介する講演の依頼を考えている」と、
杉山さんにお話ししたところ、

「他の地域の事例を学ぶのも良いことですね。でも、富里のみなさんから学びましょう。富里市の自治会は立ち上げから独自の歴史を持っているので、現場で奮闘されている皆さんの実践の中にこそ、本質と未来があります」と。

こうして始まったのがこのインタビュー事業でした。

お話を伺うことのできた皆さんの言葉ひとつひとつに、自治会活動に対する想いや責任、将来を見据えた熱意が込められていました。

この貴重なお話のひとつひとつを区・自治会活動に携わる市民の皆様はもちろん、共に地域課題の解決に取り組む富里市の方々とも共有し、これからの活動のヒントになればと考え、本書を作成しました。

今回紹介しきれなかった富里市の区・自治会にも素晴らしい取組がたくさんあります。

本書を読み終えた後に改めてお住まいの地域の「区・自治会」に目を向けて頂く機会になれば幸いです。

おわりにこのインタビューを快く引き受けてくださった区・自治会長の皆様、インタビュー事業に御協力いただいた杉山様に感謝申し上げます。



インタビュー紹介 すぎやま みきお 杉山 幹夫



信州大学農学部在学中から農村や共同組合の調査を通じ、住民や地域の企業のネットワークの研究を行う。

札幌市の観光案内サイトの編集長をしながら、イベントプロデュース。地域ブランドの研究を東京大学情報学環で行ったあと、和歌山大学の客員教授として、産業振興、観光による地域振興、住民による情報発信などを研究。

札幌で北海道中小企業ネットワーク・地方自治研究所を立ち上げ。現在、沼田町関係人口創出アドバイザー、宝水ワイナリー取締役、株式会社サン広告社 シニアプロデューサーなど。

Talks トークス 富里市区長会 区・自治会長インタビュー集

目次

区・自治会長インタビュー集 エリアMAP … P2

インタビュー 01 **両国区**
区長 秋葉 隆さん …… P4

インタビュー 02 **ファミリータウン富里自治会**
自治会長 安藤 禧一さん …… P6

インタビュー 03 **花輪台自治会**
自治会長 上村 豊さん …… P8

インタビュー 04 **桜台自治会**
自治会長 木内 綾子さん …… P10

インタビュー 05 **大和ニュータウン自治会**
自治会長 高谷 正敏さん …… P12

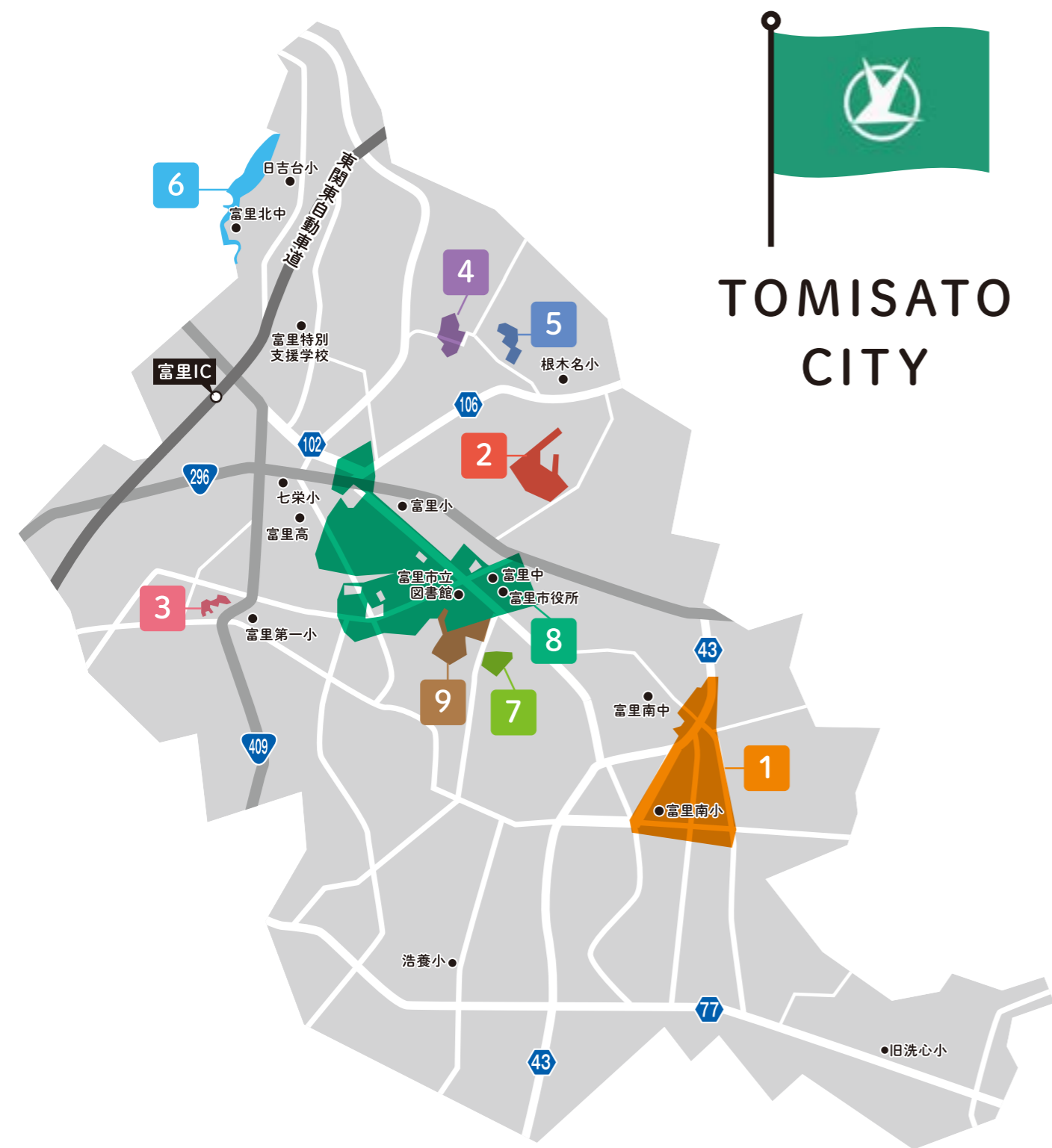
インタビュー 06 **日吉台6丁目自治会**
自治会長 竹下 正さん …… P14

インタビュー 07 **東立沢自治会**
自治会長 中野 良治さん …… P16

インタビュー 08 **七栄第三区**
区長 三浦 和則さん …… P18

インタビュー 09 **立沢台自治会**
自治会長 山本 猛さん …… P20

区・自治会長インタビュー集 エリアMAP



1	両国区	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/250世帯(11組) ●役員数/8人 ●小学校区/富里南小学校
2	ファミリータウン 富里自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/435世帯(17班) ●役員数/10人 ●小学校区/根木名小学校
3	花輪台自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/57世帯(班なし) ●役員数/10人 ●小学校区/富里第一小学校
4	桜台自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/195世帯(5班) ●役員数/7人 ●小学校区/根木名小学校
5	大和ニュータウン 自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/120世帯(11班) ●役員数/9人 ●小学校区/根木名小学校
6	日吉台6丁目 自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/485世帯(18班) ●役員数/28人 ●小学校区/日吉台小学校
7	東立沢自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/130世帯(5班) ●役員数/10人 ●小学校区/富里南小学校
8	七栄第三区	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/380世帯(21班) ●役員数/20人 ●小学校区/富里小学校
9	立沢台自治会	<ul style="list-style-type: none"> ●世帯数/391世帯(10班) ●役員数/13人 ●小学校区/富里南小学校



両国区

区長 秋葉 隆さん

に聴きました

■両国で長くご商売をされているんですか？

昭和39年の東京オリンピックの年に今の店ができてますので、私が生まれた頃からここで商売をやらせてもらっていますね。

父の働く背中を見ながら、何のためらいもなく店を継いでいくんだなと思っていました。

おじさん達に昔の話を聞くと両国には軽便鉄道の駅があって、映画館から草競馬までなんでもあったそうで、私が小学生の頃もかなり商店もあったんですが、今はほとんどなくなってしまって寂しい気持ちになりますね。

■街の様子が変わっていく中で、自治会活動で苦労されていることはありますか？

ここ最近が高齢化もあって区長（自治会長）の選出に苦労していましたね。現役の区長が次の区長を探すことになっていて、昔、父のところにも「誰か区長いないかい」って役員さんがよく来ていて、探せずに2年3年と留任する方もいました。

そんな状況の中、近所の方が区長になって、色々と区のことと相談に来てくれた縁で仲良くなって飲みにも行くようになったんです。そこで「両国をこうしたらいいんじゃないか」って、色々意見を交わすようになりました。そこから、年3回だった会議を2、3か月に1度はやるようになりましたね。

■前の区長さんとお酒を酌み交わしてたことで、実現できたことがたくさんありそうですね。

僕らもお手伝いして規約をしっかりと作り直しました。自治会をやめていく人には賛助会員の制度を作って、賛助会費だけは負担してもらおうようにしました。回覧も回さないし、役員にもならないけど「住んでる以上は防犯灯も恩恵を受けてますよね。火事になったら消防団にも助けてもらいますよね」って。管理している建物も老朽化してるから内部留保も必要。そういうお金は区としては絶対に必要なものですから、使い道を説明して、理解していただくようにしています。

苦労していた役員を選出は、当時と違って各班の中で役員を順番に出してもらうので1年前から話合いをしておいてもらうことも出来て、私の後任も1年前からもう決まっているんです。

運営の形は出来たと思うんですが、コロナで集まって意見交換出来ないのが残念ですね。ですから今は、回覧板を回す時に区の出来事をまとめた物を渡したり、何か不安や提案があったら書いてもらえるように工夫しています。

区の一大会事の夏祭りがコロナで中止になってしまっているのもすごく残念です。近隣の地区では祭りをやっているところが少なくなって、協力して一緒にやってみようかという話も出ていたんです。ふるさとまつりの代わりに、南部祭りみたいにして中学校の校庭を借りてやらないかという話も持ち上がって、「みんなでやればできるよ。子どもたちの発表の場にもできるしね」って。

■お祭りは手間がかかるのでやめようということも多く聞くんですが・・・。

お祭りって、メンバーが変わってしまう役員の集まりでは長くはできません。祭りをやりたいと強く想っている人だけのグループでやるといいんです。

両国区は区とは別に実行委員会を作っていて、そのメンバーは変わりません。やらされている感じだと続かないから、やりたい人が出来る体制を作って、そこが実行部隊として動いて、あとは当日のお手伝いや、応援だけお願いすればいいんです。面倒な交渉や準備は、毎年できる数人がやれば続きますよ。メンバーが変わると、大変だから「やるか、やらないか」から話が始まってしまってやらない時があったんです。これではだめだなと思って。

会計も区とは別の独立会計にしています。寄付も意外といただけて、それを内部留保して太鼓の革の張替えに充てたりしています。補助金は区から少しもらいますけどね。

踊る人も少し声をかければたくさん集まりますよ。皆さん横の繋がりが強いので。踊り手が多すぎて夜の10時11時までやっちゃった時は、警察からやりすぎだって言われたこともあるくらいで(笑)。

お祭りは参加したい人はいっぱいいるけど、準備に力を割ける人がいないと続けられない。自治会の義務となると苦しくなりますよね。

お祭りは直接顔を合わせていろんなことを協力してやるので、顔見知りが増えて防災訓練に繋がるところもあるかもしれませんね。

■自治会長として色々な事をやらないといけななと思われるのはどうしてですか？

防犯灯の関係とかで昔から自治会の方とお話しする機会も多くて、取引していただいているお客様が地元の方なので恩返ししたいという気持ちなんですかね。

商人ってつい、全ての人がお客さんで「なんか役に立たないと」って当たり前に考えてしまうのかもしれないですね。それに、子どもの頃は悪さしてご迷惑をかけたけど、大目に見てもらってたなという地域の方への想いもありますね(笑)。

生まれも育ちもここなんで、子どもも高齢者も少しでも気持ちよく暮らせる場所にしたいですね。

■恩返ししたいという想いはいつ頃から？

子どもが生まれた後ですかね。自分の子が育っていく中で地域の方にお世話になりましたし、私が子どもの頃は、仮装行列や近くの墓地で肝試しとかをやってくれて、すごく楽しい思い出として今でもはっきり覚えています。子どもの思い出作りっていうのはすごく大事だなと思いますからね。

■両国区の魅力とか、今後の自治会活動について何か想うことはありますか？

もっと両国を良くしたいという途上ですけど、区長が負担になる事をできるだけ手分けしてあげて、誰でも区長ができるようにしたいと思います。同じ小学校区の立沢台自治会さんが事務員制度とかすごく先進的なことをされてる話も聞いてますので「負けらんねえーな」って感じですね(笑)。

それから、商店会の繋がりで日吉台地区の方からは「南部は土地が広くて自然があって農地もあっていいね」って言われることがあって、今の時代に合った形で何か、例えばバスを用意して一緒に芋掘りして焼芋をすとか、南部にしかないものを北部の人に知ってもらいたという想いもありますね。

■自治会長から隣の地区と一緒に祭りをやるとか、富里のまち全体を見渡して、北部の方と交流しようという話が聞けるとは思わなかったです。

自治会の色々な情報を皆さんで共有していけるといいですね。本日はありがとうございました。



ファミリータウン 富里自治会

自治会長 安藤 禧一さん

に聴きました

■ファミリータウン富里を選ばれたのは？

退官後に空港勤務する予定の先輩の話なんかも聞いていたので、そのあたりも見据えて、ここを選んだんです。それが今から30年も前ですね。岡山の田舎の出身なので、ここに全然抵抗はなくて、むしろゆったりしていいかなと思って。

ここに来る前は海上自衛隊の官舎に住んでいましたが、たまたまそこにセールスマンが来て、連れてこられて（笑）。

■自治会との関わりはいつ頃からですか？

最初は、ここに越して来て2年目に役員になって「じゃあ、どなたか会長やっていただけませんか？」って。でも、誰も手をあげなくて痺れ切らして「じゃあ、いいですよ。決まらないなら俺がやるわ」みたいな感じで。後で後悔しましたが（笑）。

今回は2回目の自治会長で3年目になりました。

■最初になさった時の自治会長はどうでした？

その頃は引っ越してきて間もない方が多くて、自治会活動より、自分の生活を定着させることに力を入れる方が多かったんですかね。だから自治会運営も規約の中身もそこそこの感じだったので、実態に合わせて変えていきました。

一番大変だったのは役員の選出でした。今は400世帯以上ですけど、当時は200世帯ぐらいだったのに役員が10人以上必要で、次の役員を探すのに1週間以上頭をさげてお願いして回ってたんす。

もうそれが大変で、総会で提案して各ブロック(班)から役員を1人ずつ出してもらおう形に変えました。今は世帯が増えて、役員1人と幹事2人ですが、各ブロックから責任をもって選出してもらうのは30年経った今も変わってないですね。

■空き地や公園の草が綺麗に刈られていますね。

昔は公園よりも不在地主の空き地が多かったのですが、そちらをよくやりましたが、今は空き地が減ってきて、3つある公園の草刈りに力をいれてやっています。草が伸びると景色が変わっちゃいますからね。でも、緊急事態宣言がでた時は、2つは私1人でやりましたよ。4、5日かかって腰にきましたけど（笑）。

■祭りとか防災の取り組みは？

ここは1200人近く住んでいるので、いざという時に自治会だけで全てを何とかしようとするのは無理があると思うんです。だから、大上段に構えないで、できることを考えてやっています。

この前の台風で停電した時、困ったのは鍋釜を炊く火じゃないんです。携帯電話の充電ができない。真っ先に来たのはこれだったんで、自家用発電機を5台揃えました。

防災訓練は役員を集めて「こんな時どうしますか？ できることはありますか？」って話をしています。

でも、一番大事なのは「まず自分と家族の身の安全を図ってくださいね。人のことはいいですから。それで、どこへ来てほしいとか、私から連絡があつてからでもいいですから」って伝えています。

理想だけ掲げて、絵に描いた餅ではどうにもならないと思っていますから。

祭りは昔から神輿とか、やぐらを組んだりしてやっています。でも、10年先を睨むと高齢化で継続していくのは難しいかなと思っていて、総会で今後のことを決めていくつもりです。総会の結果でわかりませんが「祭り保存会」みたいにやれる方の集まりでやっていくのもあるのかなと思っています。

■昔から先頭に立つタイプだったんですか？

そんなことはないんです。自衛隊をリタイアする前の12、3年は教官として対潜哨戒機に乗る若い隊員を教えてたんです。時々「コツン」ってやって、しごきつつ、なだめつつ、おだてつつ（笑）。そんな経験はありますが、あまり知らない人のお付き合いは得意じゃなかったんです。職場でも、みんながワイワイ言ったら一歩下がって別のことを考えてるようなタイプで。それでも慕ってくれる後輩はいましたけどね。

■自治会の皆さんとお話される時に大切にされていることは何かありますか？

1回目の自治会長の時は、会議も「ささっ」と終わらせてしまう感じだったんですが、ある時「あれだと何か言う暇がないですよ」って言いに来てくれた方がいたんです。だから、今は私の意見を言う前にまず意見を聞くようにしています。

「会長、こんなことがあるんですけど」って、言ってもらえてこそその会長だと思ったので、意見を言いやすい雰囲気というのは大事にしています。会議で意見を言ってくれた人のところに後で出向いて行って改めて話したりすると、次から硬い絆で結ばれる。そう言うとオーバーですけどね（笑）。

■自治会に携わって良かったことはありましたか？

やっぱり人との関係っていうか、付き合いですよ。

私、6年前に女房を亡くしたんです。その時は、どっかに穴が開いたような感じで、1年ぐらいは家の片付けなんかして気を紛らわしてました。その後は犬を飼って「よしよし」しながらテレビを見る毎日だったんですけど、下手すると何日も人と話さない日が続くんすよ。

ある日「これじゃまずい。人間の生活じゃないわ。一歩でも外へ出ないと駄目だ」と思って、2回目の自治会長になる前にブロックの幹事をやらせてもらったんです。

自治会の皆さんに救われましたし、みんなとコミュニケーションをとりながら自分の住む街のことに関われるのは幸せなことですね。

■自治会長としてやり残している事はないですか？

今後のことが悩みの種ですが、そろそろ次の方に渡したいなと思っているんです。「よっころしょ」の回数が増えてきて（笑）。

次の人が困って、どうにもならなくなった時に向いていける体力のあるうちに代わっておかないと。「俺がやってる間は責任持つけど、あとは知らんぞ」って言いたくないし、次の人が大変ですからね。それを今は一番考えてます。ですから、これは無理だよということはちょっとずつ変えていって、次の人にちゃんとバトンタッチしたいと思っています。



しらかば公園



花輪台自治会

自治会長 上村 豊さん

に聴きました

■14年も自治会長をやられていると色々な出来事 がありそうですね？

そうですね。私がというよりは自治会の皆さんと色々やってきましたね。

うちの団地は、ほとんどが私道なんです。だから、何でも自分たちで直さなきゃならない。

10年位前かな。道路脇のU字溝が劣化してしまって、ちょっと足を掛けただけで崩れてしまうような状態だったんです。それをそのまま放っておけないので、突っ張り棒なんかで補強したりしてたんです。ただ、それでは限界があって、住民の皆さんに話をしてお金を出し合っただけで直したんですよ。

でもその時ね、ちょっと大変だったんですよ。団地全体のことだから「みんなでお金を出そう」って。でもなかなか納得してくれない人もいて。お金がかかることだから、分かりますけど。

私は普段、自分の意見を押し通すことはないんですけど、この時だけは「今ちゃんと直しておかないと取り返しのつかないことになりますよ！」って言っちゃいました。14年で唯一、九州男児が出た瞬間でしたね（笑）。

U字溝だけじゃなくて、団地内の道路も坂道なんかは特に痛みがひどくて、ガタガタでね。これも大規模な補修が必要で、同じようにその道路周辺の住民みんなに声を掛けてお金を出し合うことにしたんです。そこには空き地もあったので、不在地主にも声を掛けました。でも、はじめはあまり協力的ではなかったんです。ここで普段生活されていないから無理もないと思うんですけど「整備されていない土地は地価がどんどん下がりますよ。我々が整備しますから協力してください」ってお話したら、最終的には皆さんに協力してもらうことができました。

それに、2カ月に1回くらい空き地の草刈りをやったりもしています。自分の土地じゃないからって放っておいたら大変なことになってしまうでしょ。空き家もそうです。だから、できる範囲のことは自分達でやっています。

うちの団地は定期的に廃品のリサイクル回収もやっているんです。有志が集まって半日ほど汗を流しながら作業して、終わったら、そこで得たわずかな収益で、発泡酒とつまみを買います。それを配って「お疲れさん」とか言いながら乾杯してね。大した集まりではないんですが、案外そういうのが楽しみだったり、コミュニケーションが生まれたりするんです。

■そういった活動が住民同士のコミュニケーションの場になっているんですね。

そうですね。もともと大きな自治会ではないので、お祭りとかはないんです。ただ、昔から8月に鉄板で焼きそばを焼いて「納涼焼きそば大会」をやっているんです。納涼とは言うものの、灼熱ですけどね（笑）。汗ダラダラになりながら焼きそばを振舞うのが伝統なんです。そこでビンゴ大会なんかもやるんで、結構みんな楽しんでくれていますよ。

あと、自治会の忘年会は毎年やっていますね。そこで、他愛のない話で盛り上がるのが楽しみなんです。ここ2年程は、コロナの影響でできていませんが、また落ち着いたら再開したいですね。

こういったコミュニケーションがあるから、自治会の運営もスムーズなんだと思います。

何より、団地の中で犯罪がほとんどない。住民同士がコミュニケーションを取り合っただけで顔見知りだから、不審な人がウロウロしているとすぐに気付くんです。

もともとこの花輪台って団地は、私みたいに他の土地から引っ越してきた住民が多いんです。自治会としても平成12年に中沢区から独立したので、自分たちで作上げたという想いみたいなものはあるかもしれませんね。

■いつからそういったコミュニケーションの重要性を感じていたんですか？

実家が農家だったんで、小さい頃から助け合いみたいなことは経験してました。

八代市はい草が有名でね。そのい草の栽培って大変なんです。一番寒い時季に苗を植えて、夏の一番暑い時季に収穫をするんです。苗を植えるのも、今みたいに機械なんか使わないですから、みんな一列に並んで息を合わせて植えたりしてね。そんな大変な作業を、近くの農家さん達と一緒にやっていたので、自分のことばかりじゃなくて一人ひとりの大変さを見られるようになったし、自然に「周りに目を配る」ということを教えてもらった気がします。

例えば、役所のことを「座っているだけで何もしていない」と批判する人もいます。でもね、役所の人たちも、住民のために本当によくやってくれているんです。目に見えない仕事をしてくれている人は沢山いるんですよ。

自治会の活動も同じです。一人ひとり大変な思いをして頑張っている。それを理解して話さないとだめですよ。「役員なんだからやって当然」というような言われ方をしたら、嫌になってしまいますよね。それどころか、役員の担い手もなくなってしまいますよ。

だからね、周りに目を配って、その人たちがどれだけ大変なことをやっているのかを理解することが、自治会の活動には必要なんです。

うちの団地はなかなか若い世代が入ってこなくて、このままいくと自治会活動は出来なくなるかもしれません。ただね、自分たちの暮らしを少しでも良くするためにも、この住民同士のつながりや市とのパイプは途絶えさせちゃいけないんです。

自治会のカタチが変わったとしても、この花輪台が作り上げた繋がりはしっかり残していきたいと思っています。

■ご出身はどちらですか？

熊本県八代市の出身です。

空港関係のメンテナンス会社に就職して、初めての配属先は大阪でした。そこから千歳空港に転勤して、最後は成田空港に落ち着きました。始めは成田に住んでましたが、平成2年に富里へ引っ越してきました。

この団地は自然もそこそこあって静かだし、何より小学校に近いでしょ。当時、子どもが小学生だったので、通学のことを考えてここで生活することに決めました。

■自治会長にはどういった経緯でなられたんですか？

先代の自治会長がね「上村さん、そろそろ退職でしょ」って言ってきてね、断れなかったんですよ。

九州男児って、きっぱり断れそうなイメージがあるでしょ？それが全然。頼まれたら断れないんだよね（笑）。

最初は「大変そうだな」って思ったんですよ。でもね、困っているから頼みに来てるって考えちゃうから、どうしても断れなくて。じゃあ「自分が力になれるならやろう」って思うんです。

どうせやるなら中途半端にやりたくなくて「よし、盛り上げるか」ってなったんですよ。

そこから、14年。色々やってきましたね。



桜台自治会

自治会長 木内 綾子さん

に聴きました

■自治会長3年目の現状はいかがですか？

「このゴミステーションが散らかってるよ」とか「相談にのってほしい」とか、本当に色々な連絡がありますね。午前中の仕事から帰ると、自治会のことをする毎日です。

家族から「そこまでする必要あるのか？」なんて言われることもあります。私に連絡をくれた人をほっとけないですからね。

住民の皆さんが、団地内で気付いたことを連絡してくれるのってすごくありがたいんです。私一人で団地内の問題点を探すとしたら本当に大変だけど、皆さん一人ひとりの声で気付くことができるんです。

■自治会長になって取り組まれたことは？

会費の滞納問題が大きいですね。本当に難しい問題です。うちの自治会は集中浄化槽を管理しているので、維持費などを払ってもらわないと困るんです。

お話をしに行くと、皆さん色々な考えがあって、なかなかスムーズにはいなくて。でも、それを許してしまえば、きちんと払っていただいている方に申し訳が立たないでしょ。なので、何度も繰り返しお話をして、払っていただくようにしていますが、本当に大変だということを実感しています。

それから去年、集中浄化槽を1億2千万円かけて修繕しました。他の自治会さんが修繕したという話を聞いて、ここも設置してから40年以上経っていたので、調べると劣化が進んでいました。それに、国の補助金も令和3年度で終わってしまうような話にもなっていたので、修繕することを決めました。

「まだ壊れてないのになぜそんなお金を使うんだ」とか、皆さんから沢山ご意見をいただきました。私もそうでしたが、生活雑排水は毎日流すんですけど、設備がどうなっているかなんてわからないんですよ。でも、自治会の役員として管理してみて、これが壊れると大変なことになるし、生活していくのに絶対に必要な設備だから、これは私達役員がきちんと説明するしかない。

もともと金融機関に勤めていたので、大きな金額を見てもびっくりすることは無いんです。

主人からは「やると決めたからには、自治会の皆さんにはしっかり説明して、次の会長さんにも迷惑かけるなよ」と言われてます（笑）。

あとは、私が自治会長になってから団地内で2回も火事があって、いざという時に消防車が通れなくなると大変だから、路上駐車をなんとかしたいなと思って。それで、団地内で使われていない個人宅の駐車場をお借りして、路上駐車している人に貸してもらうようにしました。まだ、2台だけですけどね（笑）。そんなこともやっています。

■その行動力や正義感はどこから来るんですか？

まあ、触れなくてもいい問題ってあったのかもしれないし、私がやらなくても、自治会は上手くいっていたと思います。でも、そのやらないという選択は私の性に合わなかったんです。どうせやるのであれば、任期中は精一杯やろうと思ってやっているだけで、ただのお節介お婆さんですよ（笑）。

私が小学生の頃、成田空港の開港問題が身近でおこっていました。正しいか正しくないかは別として、まっすぐで熱意を持った学生たちが他人のために行動していた姿を見て育ったのが大きいですかね。私と同じ年代の人たちはみんな経験してますから、自分の為だけじゃなくて、世の中の人役に立てばいいかなみたいな気持ちが強いのだと思います。

■自治会活動で心掛けていることはありますか？

必ず「出向く」ようにしています。

住民の方から何かお話があったら、必ず現地に行き、その状況を確認する。そうすることで、連絡をくれた方も安心するし、状況を共有することができると思うんです。

市役所に用事がある時も、必ず出向くようにしています。電話だけでは伝わらないこともありますからね。

私も銀行の窓口で色々な経験がありますから、自分達の言い分だけを押し付けることはしないようにしています。話を聞いてくれて、アドバイスをもらえるだけでも助かりますから。最近は、市役所も変わりましたよね。直接お話することで「ここまでできるけどこれ以上は申し訳ない」と真摯に答えてくれますね。

■頼りがいのある自治会長さんですね。

いえいえ。そんなことは無いと思いますけど、ただ、私は「ご近所さんとは仲良くありたいな」と思いながら自治会活動をしてるんです。

何かの縁があって、一緒に団地に住むことになって、こうして繋がりがあがる。そんなご近所さん達とは、いつまでも仲良くいられるような自治会でありたいですね。

どんなことも意見が対立してしまえば解決が難しくなるので、日頃からコミュニケーションをとって、良好な関係を築いておくことがとても大切なんです。

この団地にお住いだった独居の方を最期まで面倒を見させてもらった経験があります。それに、銀行時代にも年金とか相続の担当をずっとやっていて、高齢者の方とお話をする機会が多かったです。そんな方々は「寂しい」ってよくおっしゃるんですね。「木内さんが居てくれたからここまで頑張ってきた」って言ってもらったこともあって、一人で生活することがどれだけ寂しい事なのかを身をもって体験してきました。そんな意味でもご近所の繋がりが大事ですね。

桜台自治会は、年に1回、自治会館前の公園で焼きそばを焼いて、みんなで食べるんです。そうやって、楽しいことを共有して顔を合わせることで、気兼ねない意見が出て、スムーズに問題が解決できると考えています。

最終的には、住民同士が「用事が無くても笑顔で会話ができる」という関係を築けたらいいなと思いますね。



桜台自治会館と公園



大和ニュータウン 自治会

自治会長 高谷 正敏さん に聴きました

の管理費をめぐる裁判を起こそうという話になって
いたんです。でも、私は「莫大な労力と金を使って
裁判をするよりも、しっかりと集中浄化槽を管理
するために、自治会の運営を確立させることが必
要なんじゃないのか」と提案をしたんです。

その頃に初代会長が副会長に指名してくれて、
その後、会長が引退する時に後任のご推薦をいた
だきました。自治会長になってからも、販売会社
との交渉を続けて、一定の解決はできました。

■ご出身は？

青森です。小さなリンゴ農家の次男坊で。地元
の中学校を卒業して、鉄鋼関係に就きたかったん
ですけど、採用してもらえなくて。それで、工業高
校に行ったんですけど、市の図書館で偶然見た社
内報に載っていた火力発電所の写真に衝撃を受け
ちゃってね。先生には難しいって言われたけど、
その電力会社に就職することができました。ここ
に越して来ても定年退職するまで都内に通って
ましたね。

■自治会に関わられたのは？

富里に引っ越してくる前は、都内の社宅に住
んでたんです。その社宅が町内会に入っていて、
社宅の代表として町内会に出ていました。そこ
は、ほんとの下町なんで、神社のお祭りとかい
ろんなことをやりましたね。下町だから気性の
荒い人もいたんですけど、その中でうまく治め
ている自治会の人たちの姿を見たり、楽しくや
らせてもらったのが今の自治会活動に繋がって
ますね。

■自治会長になられたのは？

富里に越してきた当時、自治会が立ち上がった
ばかりで、会則の整備なども途中の段階でした。
そんな状況の中、販売会社を相手に集中浄化槽

■富里に住まわれたのは？

社宅に開発会社が訪ねて来て、買う気もな
かったんですけど、連れていかれて見てみたら
いいかなあと思ってその場で決めました。

ここは災害にも強いし、いい所なんです
けど、砂埃の話が自治会でもよく出るん
ですよ。でも「自分で大金を払って買った
土地なんだから、文句を言っても仕方ない
だろう。嫌なら、自分たちで良くすれば
良いじゃないか」という想いがあるん
です。だってそうでしょう。自分がこれ
から何十年と住まなくてはならない土地
の文句を言っても面白くないでしょ。

■30年以上自治会長さんをやられていますが、 何か秘訣などはありますか？

特に秘訣なんてものは、ありません。
毎回目の前の問題に向き合って、気が
いたら長くやっていた感じです。思い
起こしてみると若い頃の経験が生きて
いるかもしれませんね。

入社して3年目くらいかな。会社で労働組
合の役員になって。まあ大変でした
ね。通常の勤務の他に、会社との折衝
もありましたし、組合員の教育

も私がやっていたからね。その時代は、特
に熱い人が多かったもんですから、人
間関係も本当に大変でした（笑）。

そこでみんなの意見を取り入れながら、
会社と向き合って上手く組織を運営し
ていくすべというか、根気強さが養
われた気がします。

あとは、会社の友人3人とよく仕事
終わりに飲みに行っていました。夜勤
明けに昼間から飲むこともしょっち
ゅうでしたけど、そこで、そのうち
の2人がすぐに口喧嘩を始めるん
ですよ。それを、もう1人と私で「ま
あまあ。お前の言うことも分かる。
ただ、こいつの言うことも分かる。
だから、こうしよう」なんて言い
ながらなだめるんです。それも、
1度や2度じゃなくて本当に毎回
と言っていいほどですからね（笑）。

■お話を伺っていると自然に人と人の間に立っ ている感じがですね。

優柔不断な性格で、ダメな津軽人だ
なと思っていて、声をかけられると
なんか引き受けちゃうんですよ。そ
こで断られるじょっぱりだったら
よかったんですけど。もう青森より
富里の暮らしの方が長くなりました
からね（笑）。

もともと私が、もめ事が嫌いだった
というのもあるけど、そんな経験や
友人たちに囲まれてきたから、人
の間に立ってなんとか治めたいと
思うようになったのかもしれない。

■自治会運営で特に大事にしていることはあり ますか？

住民とのコミュニケーションですね。
「世間的な立場や職業は違えど、ご
近所同士仲良くやりましょう」とい
うのが私の考えです。
住民一人ひとりとコミュニケーション
を取って、顔を見ながら話をする
ように心がけています。

よく「班長が自治会費の集金で1軒
1軒回るのは大変だ。振込にしたい」
という提案があるんですが、私は
反対なんです。確かに大変なんです
けど、

これには大切な意味があると思っ
ていて、1つは、直接集金することで、
コミュニケーションを取る機会に
なって、住民の声が聞き取れる。
自治会としてどうして欲しいのか、
どういった困りごとがあるのか
が自然と聞けるんです。

もう1つは、定期的に顔を合わせる
ことで、独居の高齢者や体の不自由
な方々の様子を見ることができ
るんです。これは非常に重要で、ご
近所付き合いによってその命が危
険な時に救える可能性があるん
です。

回覧板を回すということも同じ意味
があると思っていて、コミュニケー
ションをとることで、命にかかわ
る問題や自治会の課題を解決す
ることに繋がるんだということを
班長さんたちにお話しさせて
もらっています。

■これから自治会長になる方に何か アドバイスはありますか？

アドバイスなんて、そんな偉そう
なものはないですよ。ただ、30
年経験して、大切にされた方が
良いと気付いたことはあります。

それは「自治会は何のためにある
のか」を考えることだと思います。
私なりの答えとして「自治会は、
住民を一人も置き去りにしない」と
いうことだと思います。

住民一人ひとりとコミュニケーション
をしっかりと取り、住民からのメ
ッセージを1つひとつ大切に扱い、
問題を1つひとつ工夫して解決し
ていく。

そうやって自治会が何のためにあ
るのかを考えながら運営していく
ことが、とても重要なんじゃない
かなと思います。偉そうに言っ
ていますが、私も未だに悩むこと
ばかりです。

そんな時は、他の自治会長さんと
意見を交換してみるのも良いか
もしれませんね。

※『じょっぱり』…津軽弁で津軽人の
気質を表す、意地っ張り・頑固者。
転じて「筋を通す」「意思が固い」
などの意味も。



日吉台6丁目 自治会

自治会長 竹下 正さん

に聴きました

■お祭りとか防災活動とか盛んにやられていますね。

そうですね。6丁目だけでなく、日吉台は盛んにそういった行事をやっていますね。6丁目では、昔から引き継がれている「ふれあいデー」って言って、12月に公園に集まって、餅つきや豚汁作りなんかをやっています。

この前は、「6丁目カフェ」という高齢者向けのイベントをやってみました。北部コミュニティセンターで、高齢者に集まってもらって、身体を動かす体操とか歌を歌ったり、座って話をするとか、誰でも参加できるような内容のものですね。

はじめは、高齢者の方に楽しい時間をつくってあげて元気になってもらいたいと思ってやってみました。「楽しかった」って言ってもらえて良かったですけど、それだけじゃなくて、参加してもらうことで、自然とその方の人柄なんか分かりました。

防犯や防災の面でも、住んでいる皆さんの状況を知っておきたいんですけど、僕らが聞いて回るのは仰々しいですからね（笑）。

こうやってイベントを通して、住民の皆さん同士が知り合うきっかけになって、繋がっていただければいいと思いますね。

■自治会を運営されていて困っていることは？

高齢の方の退会が増えてますね。退会の書類が出てくると必ず直接会いに行つて理由を聞くようにしています。少しでも退会する方を減らしたいので聞いているんです。でも、それを打開するような案というのは見つけられてないですね。

会長とか副会長が1、2年で変わってしまうから盛り上がりもそれが繋がっていかないのを私も役員さんも感じていました。「役員で組織を作るん

じゃなくて、好きな人が集まったらいいよね」って。それで、今まで副会長がやっていた、防災、防犯、行事に関する活動を、防災部、防犯部、ふれあい行事部として独立させて、その分野が得意な方で集まってもらうようにしました。そうすると、興味があって、気が合う人たちで楽しんでもらえるし、それが自分たちの6丁目のためになるのですごくいいですね。これは3丁目の自治会さんがやっていたのを参考にさせてもらったんです。

■参考になる自治会が近くにあるのは心強いですね。

そうですね。日吉台小学校区は、自治会同士の集まりが多くて、他の自治会長さんと話す機会が結構あるんです。そこで他の良い取組を聞いて、自分たちの自治会でもやってみようってことは色々ありますね。

実は、「6丁目カフェ」も5丁目でやっていたのをマネさせてもらったんですよ（笑）。

■役員の手はどうか？

役員は持ち回りにはなっていますが、高齢の方が多くなってきて、役員はできないという方が増えていますね。そういう方には免除の書類を書いてもらって「できなければいいですよ」って言ってます。無理にやってもらうわけにはいかないですから。

この自治会は昔から、役員になる方にこの役職ならいいですよって丸をつけてもらう形なんですよ。私としては、昔の町内会みたいにその地域の世話役みたいな人がいて、自治会に入るとか入らないではなくて、10のうち1つでも、できる人がやれることをやって、何もできないという人は参加だけしてくれるとか。それでいいと思っています。

先ほどの6丁目カフェも自治会に入ってる人だけの行事にはしないで、入っていない人も100円だけは負担してもらって、お友達とか誰でも参加できるようにしました。

よく、自治会に入ってもメリットがないと聞きますよね。でも、そういうことではなくて、地域運営の

費用は払ってもらうけど、役員とかの活動ができない人は、無理してやらなくてよくなって、やれる人がやっていく。そうやってみんなでやっていくのが自治会なんだと思うんですよね。

■そんな考えに至られたのは？

私の性格なんですかね。わからないですけど。ただ、子どもの頃を振り返ってみると、学級委員も結構やっていましたし、どちらかというとガキ大将みたいなタイプでしたね。「みんなで〇〇やろうぜ」なんて言って、友達を集めて遊ぶのが好きでしたからね。それで、遊んでいる最中は「つまらなそうにしている子はいないかな」「困っている子はいないかな」って、考えていたような気がします。

仕事でも後輩が困っていると「俺がやるよ」って、つい言っちゃいますから。面倒見がいいほうだとは思いますが。

自治会でも、すべてのことに答えが出せるわけではないですけど、一緒にやろうという姿勢がないとだめですね。「それはあなたの担当でしょ」なんて言っていたらうまくいきませんよ。

これからの自治会は組織で動くというより、個人の繋がりを大切に動いて行った方がうまくいくんじゃないかと感じています。

■自治会長を長くやられてよかったことは？

役員さんと色々やっていく中で「それは私がやるよ」とか「じゃあ、一緒にやろう」とか人とのいい繋がりができることですかね。

あとは、自分が考えたことをみんなに賛成してもらって、だんだん形になっていくのは楽しいですね。会社の仕事と違って利害関係のない人たちとそういうものを作り上げていく喜びっていうのは、自治会で経験してみないとわからなかったですね。

動ける人たちがアイデアを出して、自然に地域の人が繋がって、一緒に楽しいことをしたいなって空気になっていくといいですね。

■昔から日吉台にお住まいだったんですか？

もともと浜松の出身なんです。高校を卒業して東京に出てきて、日吉台に来る前は鎌ヶ谷に住んでました。妻が空港勤務だったので近いほうがいいということでこちらに越してきて。3丁目の借家に2、3年住んでから、近くに森もあっていいところだったので今の6丁目に移って、もう7、8年になりますかね。

■日吉台に住まわれていかがですか？

日吉台はいいところですよ。閑静な住宅街で、交通の便もいいのでね。それに、自転車で役員さんのところをよく回るんですけど、皆さん自分の家を大事にされていて、庭の手入れとか掃除をきちんとされていますね。

■自治会長を4年も続けられているのは？

皆さん大体1、2年で交代していますよね。自治会長になる前に役員をやらせてもらっていた頃から、自治会ってこんなことをやったらいいんじゃないかとか、こうすれば効率的になるなってことを何となく思い始めていました。でも中々1、2年ではやりきれなくてね。また来年もやらせてもらうので5年になりますね。



東立沢自治会

自治会長 中野 良治さん

に聴きました

■自治会との関わりは？

この団地ができた頃に開発会社が倒産してしまっ、集中浄化槽の設備なんか差押えられてしまうような話になって、なんとかしないとイケなくなっちゃって。その頃はまだ12世帯しかなかったんですけど、自分達の団地をなんとか守るために、集中浄化槽を管理するのに必要だった法人格を取って管理組合法人を作ったんです。その頃から自治会には携わっていました。16年自治会長をやった後に、長く管理組合法人の理事長をやらせてもらっていたんです。4年前に、前の自治会長が引退するというので、管理組合法人を別の方に任せて自治会長をやらせてもらっています。

■大変なスタートでした。

そうですね。その頃は側溝も砂で埋まっちゃっているような状況で、みんなで土砂清掃をやったりしてましたね。でも、大変だったというよりは「やった。開通した！」とか言って楽しんでやりましたね（笑）。

集中浄化槽に関しては、管理組合を法人化した例がなくて、なかなか認可してもらえなかったんです。でも、マンション法の考え方を使えないかということで法務局といろいろ話をして、1年かけて立ち上げることができたんです。

集中浄化槽の管理は業者に任せていました。でも、不在地主からも管理費をもらっていて、皆さんからお預かりした大事なお金なので、業者に任せきりにしたくなかったんです。だから、自分でも勉強して、浄化槽管理の資格を取りました。そこまでしなくてもよかったのかもしれないですけどね（笑）。

お預かりした管理費をいかに皆さんに還元するかを考えて、安くてもしっかり管理してくれる管理業者を探したり、少しでも安くするために、自治会内の配管清掃を全部まとめて発注したりもしていました。今は公共下水道に接続して集中浄化槽の管理はなくなりましたが、おかげさまで壊れて使えなくなってしまうような大きな事故無く管理することができました。

■重点的に取り組まれてきたことは？

色々やってはきました。なかでも防災についてはかなりやってきたと思います。

今も、防災部門は積極的に活動しています。この団地専用の防災無線が昔から設置してあって、令和元年の台風の時にも活用したんです。災害時には、市の防災無線とは別に、団地内専用の連絡手段として活用しています。それから、東立沢オリジナルのものとしては、団地内の消防設備などを記した防災マップなんかも作成しています。

あとは、災害用個人情報管理ですかね。家族構成や、かかりつけ医、緊急連絡先とか、緊急時に必要な情報を記入してもらっていて、救助が必要になった際にいち早く対応できるようにしています。ただ、これは重要な個人情報です。ですから、封筒に入れて封印して、災害時以外は開封しないという約束で厳重に管理しています。

防災訓練は、安否確認訓練と個別訓練をやっています。安否確認訓練では、外出できない高齢の方などには、救助は必要ないという意思表示として玄関ドアのノブにタオルをかけてもらうことにしています。そうすることで、避難してこなくても、タオルがかかっていないお宅だけ安否確認すればいいですからね。避難してきた世帯の確認も一目でわかるように地図に○×をつける形にしました。災害時に必要になる炊き出しとか応急救護なんかをやっておく個別訓練は、班ごとに役割を毎回変えてやってもらっています。そうすると多くの人が色々な体験ができますからね。

令和元年の台風の時、パンとか簡単に食べられる非常食が好まれたので、備蓄品も変えていこうと思っています。そんな工夫を重ねながら毎年繰り返しています。

■ご出身はどちらですか？

栃木県の益子の生まれで、高校を卒業して厚木で米軍の飛行機整備の仕事に就いたんですが、その後にJALに転職して、30歳くらいで羽田空港から成田空港に移ってきました。

家族は、兄と弟の三人兄弟で、母は病気で早くして亡くなったので、父が男手一つで私たちを育ててくれました。

父は八百屋とか豆腐屋とか煎餅屋をやったり色々していて、その関係で、小学校を4回も転校しましたね。父は本当に忙しい人で、早朝から働いて私達を養ってくれていましたから、家では私が弟の面倒をみていました。小学校2年生の頃からかな、弟の為に学校から帰ったらご飯を作ってあげてましたね。まあ、今考えると、その頃の経験が今の私に繋がっているのかもしれない。

弟の面倒を見るのは、本当に大変でしたけど、周りの人たちが温かくて、本当に色々助けてくれたんですよ。

その時に感じた人の温かさというものが「自分も大人になったら人のために何かできるようにしたい」と思わせてくれたんだと思います。

■その気持ちが今の自治会活動に繋がるんですね。

そうですね。同じ団地に住む皆さんが、安心して生活できるように私ができることをやりたいと思っています。自分が住む団地の仲間ですから、みんなが助け合って、安心して暮らせるようにしたいですね。

この団地ができた当初は大変なこともありましたが、逆にそんなことがあったから、最初から自治会がちゃんと機能していましたし「誰がどうした」とか言うのではなく「私は何ができる」って協力してくれる方が多いですからありがたいですね。

■新しい自治会長に向けて何かメッセージを。

他の自治会に話を聞いてみるのがいいですね。他の自治会へ行くと、同じ悩みを共有できたり、解決策を学べたり、本当に良い経験になります。集中浄化槽の問題で困っていた時も参考になる事を聞きましたし。私も若い頃は、他の自治会の取組を参考にさせてもらったこともあったし、逆に、教えてあげるようなこともありました。

まあでも、一番重要なことは「楽しむ」ということでしょうね。何をやるにしても、楽しくなかったら頑張れないですから。

防災担当の方とは、この団地に越してきた時からの付き合いで職場も同じだったんです。屋間顔を合わせて、帰ってまた自治会の活動で顔を合わせてましたけど、お互いに楽しんで何十年もやってきましたよ（笑）。

まずは、行動してみて、楽しそうにやっていたら、周りも自然とついてきてくれますよ。



団地専用の防災無線



七栄第三区

区長 三浦 和則さん

に聴きました

■どういった経緯で区長になられたんですか？

何年か前から、区（自治会）の先輩からやってくれないかって話をいただいてたんです。最初は、まだ店もやっていますし、断ろうかと思ったんです。

でも、区の中で誰かがやらないといけないことなので「やれる時にやろう」って腹をくったんです。今年で2年目になります。不動産屋で土地勘はあると思っていましたけど、七栄第三区は広いですね。20班以上に分かれていて、各班長さんの家に回覧配りに行ってみると初めて行くところも結構ありましたね。

■不動産業は長くやられているんですか？

そうですね。私の代で35年になります。今の不動産屋は、親父が作ったんです。親父はずっと商売をやっていて、若い頃は小さな鮮魚店をやしながら魚を自転車に積んで売りに歩くことから始めて、その後はスーパーをやった、それで今の不動産屋を始めたんです。私も子供の頃からスーパーの手伝いをよくしていましたね。

不動産屋を私も一緒にやり始めた頃、親父はね「おーい、いるかい？」なんて言いながら平気で農家さんの敷地にズカズカ入っていくんですよ。何の用事があるのかと思って後ろをついていくと、ほとんど世間話なんです。「父ちゃんの具合はどうだ？」とか「息子は元気か？」とか（笑）。

1時間くらいお話しをした後にやっと「おっ母、実は、父ちゃんの持っている土地を売りたいって人がいるんだけど、売ってもらえそうかな？」って。

そこは昔、魚を買ってもらっていた農家さんで、土地を無理に手放してもらわねえから、そのために誰にどうやってお話をすればいいかを考えていたんですね。

親父は、人との関係を築くのがすごく上手なんですけど、ずけずけと遠慮しない話し方はどうなかなって感じてました。それでも、うまく話がまとまるので、本当に不思議でした。

結局、どの商売も人との繋がりを大切に「信頼」を買っていただいているんです。食品も口にする方のことを想っているかどうか。不動産も同じで、そこに暮らす方の未来のことまで考えているかどうか。そういう商売をしないとお客様からの信頼はいただけませんからね。

「三和って、昔スーパーをやった三浦さんとこの息子かぁ」なんて、何十年も経つのに覚えていてくださる方がいるんですよ。

区長をお引き受けしたのは、この地域へ何かお返しをしたいという気持ちがあったからなんです。苦しい時も本当に皆さんに支えていただいて、昔からの繋がりで商売ができていますから。それで「私でお役に立てるなら」って。

■自治会の関係で千葉県宅地建物取引業協会 印旛支部との協定締結の際、三浦さんが窓口になっていただきましたね。

そうですね。大したことではないんですけど、富里市が自治会のことや空き家のことなど色々考えてくれているのを知っていたので、不動産屋としても区長としても、それに少しでも協力できればと思っただけです。

協会の役員をやらせてもらっているのも、印旛地区の不動産屋さんと繋がりができると思ったからなんです。私が若い時には考えられなかったんですけど、今の富里の若い世代の創業者は商工会とかいろんな集まりによく参加していて、積極的に人との繋がりを作っています。そうしてできた人との繋がりの大切さというものを彼らは知っているんだと思います。それは素晴らしいことですよ。

■不動産業をやられてきて地域に貢献できたことはありましたか。

少し前に、この地域で宅地開発をやらせてもらいました。その入口の道路が、子どももよく通る狭い砂利道で、住民から「危ないね」って言われたことがあったんです。子供たちの安全が何より大事だと思ったので、その道路を拡幅して寄付する形にして開発をすることができました。それに、入口が整備されていけば、これから先、その奥の街並みが変わってさらに住みやすくなりますからね。この時は、地域に少しは貢献できたかなと思いました。

■区の運営で悩みなどはありますか？

七栄第三区は10とか20区画の開発がよくあるエリアで、新しくできた分譲地の皆さんと昔からお住まいの方がいるので、運営の難しさはありますね。新しい分譲地で別に自治会を立ち上げてもらうのがいいのか、七栄第三区に入ってもらった方がいいのか役員の中で意見が分かれるところです。

それからやはり、役員の後継者問題はありますね。昔は60歳を過ぎると皆さん退職されて、役員をやる感じでしたが、今は60歳を過ぎてもまだ仕事されていますからね。うちの区は、副区長から

始まって、次に区長をやった、その後に墓地を管理する評議員を2年やることになっているので4年間なんです。コロナで活動があまりできなかったのもありましたけど、後任が見つからなくて全員留任したんです。それで区長2年目なんです。その他の防犯とか民生委員なんかの役もずっと同じ先輩がやっているので、これは考えていけないといけませんね。

■何か解決したい事は？

区長をやってみて一番大変だと思ったのが会計です。私は自営で経験がありますが、それでも色々聞かないとわからないことがあります。これを経験がない方がいきなりやることになるのはもっと大変ですよ。会計処理の方法については、もう少し工夫して良い方法を皆と考えていきたいです。大事なものは、いただいたお金をちゃんと使うべきことに使って、残った結果がわかればいいことですから。そうやって役員の負担を減らして、区費をどうやって皆さんに還元するかを話し合っ決めていきたいですね。

■自治会の活動を一生懸命やっている土地の価値は変わると感じますか？

変わると感じますね。何十年も前に関わった分譲地を見ても皆さんが高齢になってはいるけど、声を掛け合って助け合っているようなところは、ちゃんと今も残ってますから。不動産の価値が、高額にはならなくても、上がることはあると思いますし、少なくとも価値を下げない、維持することに繋がっていると思います。

一見、ただのボランティアだと思ってしまう自治会活動も、そんな成果として自分達に返ってくるものがあるんです。自治会活動というのは、不動産の価値を下げない、少しでも上を目指していくことなのかもしれませんね。



立沢台自治会

自治会長 山本 猛さん

に聴きました

■自治会に関わられたのは？

この団地が出来始めた昭和51年に越して来て、その頃にやる人がいなくて自治会長をやったことはありました。今回、自治会長をやる前は、常任委員というのを3年やっていました。この常任委員というのは、単年度では終わらない、例えば集中浄化槽を移管する話とか規約の改正とか複数年かかる案件を特命で扱う役員です。

それで、その時の会長さんから「もう80歳近くなるから、次をやってもらいたい」と言われて、自治会長を引き受けることにしたんです。

でも、ほんとは他の団地に家も建てちゃって、引越する予定だったんだけど、出ていかれなくなっちゃって(笑)。

今は自治会長になって4年目になりました。この団地の事の他に小学校区の事もあって、色々やることはあるんです。でも、細々した事務は全て事務員さんにやってもらえるから、すごく助かってますよ。事務員さんは3人の方が交代で9時から17時まで週6日間、自治会館で事務をやってもらっています。

この事務員制度というのは、南七栄区会さんに話を聞きに行き始めました。事務員さんのための費用は必要になりますが、班長さんなどの役員は年々減らすことができました。もともと32名だったのが今では13名になっています。

■事務員制度を始めるのに意見はなかったですか？

事前に回覧して意見を聞いて、最終的には総会で話をさせてもらって、了解をいただきました。この団地は390世帯ありますが、事務員制度にしてみて、特に何か問題になるような事はないですね。

もし何かあった時は事務員さんに任せっきりしないで、私が直接伺って話をするようにしていますから。

■事務員さんが居てくれて良かったことはありますか？

ありますね。今まで班長さんがやっていた事の多くを事務員さんにやってもらえることで、班長さんは、回覧を回したり、年数回の側溝清掃や粗大ごみの収集ぐらいになって、前よりもかなり負担は減らせています。

それに、事務員制度を始める前は、どこの世帯も自治会費を農協口座からの引き落としにしています。でも、近くの農協に行くのも難しい高齢の方もいたんです。そんな方は、事務員さんに現金で納めることができるようになりましたから喜ばれていますね。

それから、新しい入居者さんへの説明ですね。自治会館にあらかじめ会則などの書類一式を準備して、事務員さんに対応してもらっています。日中は勤めている方が多くて、今までは、日程を合わせるが大変でしたけど、今は都合のいい時に来てもらえるようになりました。

■初めてこの団地に伺いましたが、ごみ一つ落ちていなくて、すごく綺麗な街並みですね。

ありがとうございます。掃除はしていますが、それでも、ごみを捨てていく方もいるんですよね。残念ですけど。それに団地内を通り抜ける車が多くてそれも心配です。

今までに防犯カメラをたくさん設置したり、コンクリート製のゴミステーションもお金をかけてきれいに作りました。自治会活動は色々なことでお金はかかりますが、私は「みんなが安心して住めるようにするためには、お金をかけないとできないよ」とよく言っています。もちろん自分達でできることはお金をかけないでやりますけどね。この前は駐車場のフェンスを作る力仕事もやりましたし、今は、有志のみんなと自治会で買い取った土地に新しい公園を作り始めたんです。

■自分が仕事で身につけた技術が地域の役に立って楽しいですね。

この団地にはいろんな職業の方がいるんです。水道屋さんとかそれぞれ得意な分野の人たちが集まってくれて作業しています。皆さん惜しまずに手伝いに来てくれるのでありがたいです。

■自分たちで考えて決めていくっていうのは、まさにこれが自治ですね。

せっかく手に入れた土地ですからね。子どもたちが夏に公園の水道で遊んでいるのをよく見ていたんですよ。だから、湧水を使った池を作ったりして、遊び場を作ってやりたいなあと。それに「あんたなら付き合うよ」って、賛同してくれる人もいますね。

最終的には子どもたちも参加させて、子どもたちの意見を聴きながら、来てくれた人が自由な発想でいろんなことが出来る様にしてあげたいですね。

■簡単な補修などは自治会でやられているようですが、自治会内の危険な場所とかはどうやって気付くんですか？

防災会というのがあって、月に1回、16時からヘルメットをかぶって団地内を歩いて回って、パトロールしています。正月には拍子木を持って歩いたりもします。そのパトロールで気になる場所があれば自治会に対応して、難しいものは市へ連絡しています。それと、私は4年間、毎日早朝に自治会内を歩いていて、390軒がどこにあってどんな状況か全部把握してますよ。でも、もうそろそろ引退ですけどね(笑)。

■今日のようなお話を自治会同士で話ができると勇気が湧きますね。街の人が自分の街の事を考えて、それぞれの自治会でどうやって子どもやそこに住む人たちに幸せになってもらうか、そういう気持ちで動いていく。そんなことが楽しいって言えるのがいいですね。

そう言っていただくと励みになります。本日はありがとうございました。



整備中の公園

トークス
Talks

富里市区長会
区・自治会長インタビュー集

編集・発行

富里市区長会

事務局

千葉県富里市七栄652番地1
(富里市役所市民活動推進課内)

電話 0476-93-1117

FAX 0476-93-4123

令和4年10月発行